諸藩蔵版書目筆記

三

イ加
769
3

諸藩藏板書目筆記巻之三

信濃　東條耕子藏著
門人　佐藤養君正校

○賀藩明倫堂

恭靖先生文集十四巻十本　木下貞幹撰　男寅亮校刊
今時の再刻本ハ錦里遺稿と題す

本草綱目五十二巻全圖三巻合四十本　明李時珍撰　稲宣義校刊

結髦居別録八巻四本　稲宣義撰

韓非子全書解詁廿巻十本　津田鳳卿撰

加 769 3

四書章句集註十九巻十二本　銅活字板

四書本義滙参四十五巻廿五本　清王歩清撰

按ずるに順菴が恭靖文集ハ原板ハ天明戊申北京ニ於て焼失せしを其後ニ順菴が子孫寛政中ニ再刻せしもの柴栗山が序を載たしものなれバ原板を寅亮が新ニて金沢ニて雕刻したる失費ハ侯より賜りて侯家の蔵板ニて出来たりしなり寅亮字汝弼号菊潭俗称平三郎幕府ニ仕へたる

因ニ云先頭藩の儒臣大島忠蔵がも彫しに金沢ニて萬暦板の廿一史を雕刻あるべき積りなりしが事故ありて成ずしてやみぬ鄭樵が通志をも翻刻あるべきもくろみなりしが出来もなかりしとぞ誠ニ惜むべし

謹て按ずるに稲若水が校正本草綱目結髦居別録ハ其後書肆へ下されし也諸藩此例多し一々に志るさず

○薩藩

萬國輿地全圖一帖　藩主英翁使儒臣赤崎彦礼石塚崔高二人校刻之

南山俗語考十二巻附録二巻六本　英翁侯撰

鳥名便覧一巻 曽槃撰

成形図説百巻 藩医曽槃撰廿巻廿本刊成余未成

本草纂疏三十巻十五本 同上撰

質問本草八巻四本 琉球呉氏撰 同上校刊

竹堂録四巻附録二巻 曽槃

竹堂節録一巻

○仙台藩養賢堂

小学白文四巻二本

四書章句集注十九巻十本

五経正文十一巻十一本

韻府一隅十六巻十本 清顔懋功撰

右此その儒官大島精一郎ゟ求めしに藩の先儒佐久間洞巌か奥羽観跡聞老志蘆東山か無刑録なとは既に儒家の蔵板となりつれは事断りしに遂に果さすして罷ぬと

○熊本藩時習館

浅江入楚五十四巻五十四本 中院通勝々撰 細川幽斎校正

新古今集抄廿巻四本

伊勢物語闕疑抄五巻五本

類字和歌集 一名名所類聚 小名寄 四巻四本 以上三種幽斎僎撰

崔顥詩集二巻一本　熊石維校刻

常建詩集二巻一本　同上

震菴遺稿十巻十本　藪弘篤撰

樂津集廿四巻廿四本　藪慤編輯

崇孟二巻一本　同人撰

孤山遺稿十二巻　同上

韓詩外傳十巻五本　秋山儀校刊

、

玉山詩集十巻三本　同上

新古今集抄これを類字和歌集までの三種藩の始祖名は藤孝号幽斎法ニ玄旨と称し法

二位法印に叙せらる和漢の典籍に博達の人の著述わづかに事歴を諸書にしるされ岷江入楚は活字板にて行本板となりて希なり世上多くは寫本にて行はるる上の四種は當時いまだ板行なりしが余の三種とかたに書肆一時なりと此は其藩中の者とも始祖の著述を知れる人少し

○

福岡藩

四書章句集註十九巻十本　貝原篤信校刊

五経正文訓点十一巻十一本　同上　世に貝原本と唱

ことなりし

小學備考八巻八本　貝原篤信撰

近思録備考八巻八本　同上

朱子文範五巻五本　同上

大和本草廿五巻和名二巻合廿本　同上

孝經便蒙釋義三巻附録二巻合四本　竹田定直撰

筑前孝民傳五巻後篇五巻十本　同上

名義備考八巻四本　村上律撰

清三郎事略二巻一本　同上

これらいつれも書肆へ板を賜りしなり　今

時にあまりは其の初は花板なりし故知る
ことなりし

○岡山藩

學舎の草創し烈公の時熊沢了介信用に
て學舎造営ありしが我生まれては武備をなす
ららされは文字は次第にして遂に講學許
ものゝ唱ふを時明倫堂と學舎唱ふなしさ
且にも実名誠詳ならず

鳩巣文集十巻十本　室直清撰

鳩巣文集後篇十五巻十五本　同上

鳩巣文集補遺六巻六本　同上　以上共済原実校刊

毛詩鄭箋廿巻五本　井通熙校刊

周易古注十巻五本　同上

本朝軍器考正十二巻十二本　土肥経平撰

常山楼筆餘五巻三本　湯浅元禎撰

常山楼文集十巻五本　同上

右ハ藩ニ而板本を書肆へ賜りしとぞ

○長藩明倫館

長門戊辰問槎四巻四本　山県孝孺等撰

長門癸甲問槎二巻後篇二巻　瀧浴長愷等撰

周南文集十巻六本　山県孝孺撰

鶴台遺稿十二巻八本　瀧長愷撰

華陽文集十二巻六本　山根清撰

東郊文集十巻五本　和智棣卿撰

畫禅室随筆五巻五本　明董其昌撰

事斯語三巻附録二巻

唐詩趣十六巻四本　小倉実廉撰

○阿藩

学館の名なし学問所と唱ふ国山小川し

周易本義筆記十六巻附録読易要領四巻合九

本

周易啓蒙筆記二巻四本

書集傳筆記十二巻附録讀書要領三巻合七本

詩集傳筆記十六巻附録讀詩要領四巻合九本

四書鈔説十九巻十二本

近思録鈔十四巻八本　活字板

孝經刊誤集解二巻一本　以上

四書訓点十巻十本

五經訓点十一巻十一本

小學訓点二本　以上十一種中村欽撰其訓点三種ハ世の所謂惕斎点是之

通鑑綱目前編廿五巻廿本　明南軒撰

通鑑綱目正編五十九巻六十本　宋朱子撰

通鑑綱目續篇二十七巻廿本　明商輅萬安等撰

明紀綱目廿巻十本　清張廷玉撰

右の二種坊間にて阿波板と唱へて三宅氏しゝ校刻せる前正續三篇百六巻本と精鋼全本に校刻せる三篇百十本の両種にして今盛に世に行はる蓋し朱文公綱目ハ正編於宋をくゝりしハ明世より後前編續編の継述ありしにより其後人ことに加へ

しかるにこの板は明の陳仁錫が校閲せしにて
宋の尹起莘が綱目発明劉有益が綱目書法
元の汪克寛が綱目考異王幼学が綱目集覧
徐昭文が綱目考證明の陳済が綱目正誤馮
智舒が綱目質実の七種を各條の下へ挿入
して評論を加へたるものなれば是も七
種の名家著せる所なりしもあまたなれども
返て原本に違ふもの少からねば世にて前
脩の成書を剽竊して一書となせしものと唐にて
之が綱鑑會編葉向高が玉堂鑑綱王世貞が

綱鑑會纂袁黄が了凡綱鑑蔡方炳が綱鑑彙
編のたぐひ皆書賈の手に成りて清にいたりても
権楚材が綱鑑易知録姚培謙が通鑑擥要なと
大同小異にして拘く明世は餘流なれば我土
にも人此等の鈔畧本のみ讀むるとなりて原
書の作者をも知るものなかりしを惜みて一
近時林天瀑先生は建議ありて学舎にて文公
綱目五十九巻のこらず官刻となして発せられし
を刪削して載せられければ文公の真面目我
邦に見るが如し

○津藩造士館

唐詩句解十三巻十三本　江忠貞撰

南溟詩集七巻三本　江忠囿撰

荀子考註一巻一本　江忠貞撰

右はいつれも板木書肆へ帰る

論語　孝経

聴訟彙案三巻三本　津坂孝綽撰

絶句類選八巻八本　同上

拙堂文話八巻四本　斎藤謙撰

続拙堂文話八巻四本　同上

津藩にては文学の盛なること近世諸藩

に及ふものなき所なり造士館の諸生常に百人の餘督学教授助教典籍の諸員ありて従をさむる事なくして業四一斎を附属して文学に更なるも弓馬剣槍の武技にもおよひてことに悉く此に習熟して其の名師長たりしとも時資治通鑑の翻刻をなしまたけ以しも雕刻いまた其にいたらされは七種は造士館にて出費して出来たれともさして儒家に荒板しに称しかくし儒家の旧板温公通鑑のことなりしその儒官坂田文之進余に語

見え

○秋田藩日知館

較定今文孝經一巻一本　山本信有撰

經義掫説一巻一本　同上

論語古傳廿一巻廿本　小林重恩撰

藝苑日鈔十六巻十六本　村瀬之熙撰

如不及斎别辨録廿四巻廿四本　藩主泰山侯自撰

秋田藩ハ先世山崎闇斎の學派にて學舎を明道館と号し小學四書五經ホの訓点あり板ありしが明和壬辰の大火ニ焼失して知人もなし天明のころへ藩主村瀬栲亭ハ山本北山を信用ありて學風一變せりと志るせと も一藩文學今ハ高く盛にして藩士ホ著述ある人多し花板も数種ありて其時の大儒詩佛奥山棕斎呂彰蜀涯ホ其臣魁なりき

○米澤藩興讓館

松鴻紀行一巻一本

津良しげく一巻一本

嚶鳴館遺稿十巻附録一巻合十本　已上紀德民撰

米澤の鷹山侯細井平洲を信用ありて一藩學

にむかつて古今に比ひなし僕己を卑ふし
て平游を優待しかつて没後に輯めて遺稿
附録中へ自撰の碑文を載せて事歴を世に
示しまたいと奥ゆかしと當時の諸儒にな
き許なり

○大聖寺藩廣徳館

東渠詩集一巻　菅原利精撰

雛山原學編一巻　三浦衛興撰

間窓自適一巻　同上

○弘前藩弘道館

武教要録一巻二本

武教餘録廿巻十本

中朝事實四巻二本　以上山鹿義矩撰

質疑一巻頭語二巻合二本

非物編十一巻七本　以上五井純禎撰

蘭洲遺稿十巻六本　山崎毅撰

弘前にてハ山鹿素行信用にて諸書を雕刻
あまつさへなほしか素行赤穂浅野家へ配
流せしめへ事やらぬ世に素行の著述多
く寫本にて行はれ聖教要録毀板となりし

らる傳本も校正して稱すへき右三書の校をも
ふ校されとも猶すへく弘前の業舎にハ有
と義矩か六世の孫山康八郎古清川余か為
に給ひて

○岡藩鳳鳴閣

反韻選二巻一本 源久貞撰

○平戸藩維新館

周易譯解十四巻十二本

書經譯解十三巻六本

詩經譯解十五巻十一本

儀礼譯解十六巻八本

四書譯解廿六巻十九本

名疇六巻六本

虚字邇解十二巻十二本 以上皆川愿撰

桃花洞遺稿二巻二本 旧本平戸文学平石棠子春撰

鯨志二巻一本

荀子箋釋廿巻附録二巻十本 清盧文弨抱經 朝川鼎校刊一本

韓子識誤二巻二本 清顧廣圻撰

○大洲藩

韓魏公別録三巻二本 宋王巖撰

安陽全集五十巻廿五本　宋韓琦撰

○徳山藩

塩鉄論十二巻六本　漢倪寛撰　伊藤長胤校刊

徳山吟稿四巻二本　徳山侯毛利元次撰

徳山雑吟二巻一本　同上

棲息堂筆記二巻

○大村藩

文淵詩源

韓子識語

紀功新書

○蓮池藩

小篆論語十巻五本

小篆千字文二巻二本

詩経毛伝補義廿巻十二本　以上僧俊山校刊

孟子解十四巻七本

孔子家語補注十巻五本

助字譯通三巻三本　以上岡白駒撰

按するに元文寛保のころほひは諸藩ともに文学の士殊に推崇ありて其著述またハ校正の書など梓行に就しもありけりて世間一様の風習となりて

謂ゆる四家のうち外に蔵板ある所なきにし
に特に高時の蓮池侯京都の處士圓吉仲彬
信用ありて賓師の禮をとりて優待しその
廩粟を給して衣食を裨けまさいハ著述に入
用の書籍を備へしめしかして毎歳に金五十両
賜りて意を文藝に専らにすらしむしその事
読洲漫筆に見えたりさて此時の老侯ハ文学を
奉崇せらるゝの厚ありしも今是らの挙行ある所
尚もさされハ其人得るも其人に依るの實に
験らかし

○臼杵藩
芙蓉絶句一巻消暇録一巻禹稷合祀記一巻一本
豊城集十三巻四本　以上荘允益撰
○新発田藩道学堂
四書章句集註十九巻十四本　山崎嘉訓点
四書或問三十九巻十九本　同上注板
中庸輯略二巻一本　同上
論孟精義三十四巻廿六本　同上
儀禮経傳通解三十七巻続二十九巻合二十四本　同上

朱子書抄節要廿巻八本 朝鮮李滉撰 黒岩慈庵校刊

通鑑綱目鈔畧廿八巻十四本 黒岩慈庵撰

按するに寺島宗意か和板書籍考に云く山崎嘉か訓点四書は寛文年中に開板す朱子の注解をとらまうに吟味し諸本の点をあらため或問輯畧を消して朱子の本意を立てたり故に嘉点本または大学中庸章句に朱子の跋文ありて諸本にはなしと

今此諸板売ものは新発田にて雕刻ありしは享保中の事なれはこの書板再刻なるへし

なるへし 和板書籍考十巻を刻は元禄十五年二月になりしかは 世に行はれし嘉点と唱ふ或問と精義は焼失して傳流ありしまゝなりて寛政中大学或問中庸輯略のみは再刻ありて原板を缺てなりしと其藩医佐藤自庵余に語りき

○津和野藩

日本紙譜二巻一本 不出撰者

天剖地解図二巻二本 清 陳章侯原本 多胡真艶摹本

○赤穂藩

書説九巻三本 宋王柏撰

東坡文鈔四巻二本　赤松勲校刊
古史華句八巻四本　明凌稚隆撰
左国腴詞八巻四本
静思亭集正編十巻五本　赤松鴻撰
真本古文孝經孔氏傳一巻一本　同上
赤城風雅集七巻三本　赤松勲撰
蘭室詩文集廿巻十二本　赤松鴻撰
魯斎詩稿七巻三本　赤松倫撰

○佐伯藩爾雅樓
正平板論語集解十巻二本
真本墨子全書十五巻八本　以上二種活字板
四溟詩話四巻二本　明謝榛撰
讀書敏求記四巻四本　清錢曾撰
閲藏知津三十巻十五本　宗密
法華經通義十六巻八本　同上
五種算經十二巻六本　清鮑廷博校本
孫子算經一巻五曹算經五巻劉徽海島算經
一巻甄鸞五經算經二巻夏侯陽算經三巻
壺邸詩稿七巻四本
壺邸詩二稿九巻六本

壷邱詩ミ稿十二巻七本 已上三種 勝聚撰

佐伯侯の庶公子名聚字公錦号枝槎堂とこ
の三業を餘然耳にうけて時習の護園流は
詩文に長しい以く一時の名士と直接しゝ
ましえて好文の名藝園に伝播せ諸家の集中
に枝槎公子と称ゑこゝ取らるの公子は好
尚ふましして一藩学をむらい高丘君高標君
は両世博覧をよろらい多まして珠巻青冊
一時に輻湊して蔵書の富海内に冠たりて不
謂紅雲高十万巻と都下のもはいい伝ふ文

政中にいたりて時君は新政にあたりて先代
は所蔵幕府へ献納しまゐらするその餘多し
青て雨雅楼書目十二巻を一見せしゝ鞭索
已降大藩巨鎮といへとも両雅楼の蔵に企
て及ふほとのは坂に蔵板になかりしものなり
華夷の品種にあらゆる稀世讀書敏求記に文
化両寅の大火に焼失しぬその後高標君は
自編清風といふ詩集二十巻刻成まで蔵中
てありしか其ものも板本焼失してそのやう
たりと称む

時の達抜文人文字を納まるもの邪し萩
野梅塢佐藤一斎江福の鈴澤深沙およひ余
虚舟佐遇栽叢をつねに従ふして経史を討
論し三子ハ道徳文章をもつて一世に山斗
たり余ハ三子と撰を異にして著述ある
おほくは校正の任を為られ一書ことに示し
あまねくきるハ那し特に皇朝藝文志二十
巻元史藝文志二巻近世藝文志年表十巻右
併三書ハ余しらしとに賛辯になりて上梓も
あまつまに文政己丑三月の大災に罹りて

○鳥取支藩曠遠楼

護法漫筆二巻一本 二板あり一ハ活字板一ハ整板点自巻首題不疑居士著

武花風土記考証二巻二本 口上

法華経新点七巻考異一巻合八本 口上

玉露童女行状一巻六歳夏一巻合一本 服部避撰

鳥取支藩冠山君ハ名定常字不疑居士と号
し縫殿頭と称しおさなくて業を好んて其中大
典和尚に受業して内外の典籍に博覧なりて
それ人と為り挹避謙虚にして士に接する一

その事罷ぬ信天保四年癸巳七月七日春秋
六十七歳にして逝去せらる信著述編纂せる
所の目四十八種三百八十八巻ありて親しく余
が目撃せる所也信揖館の後甲午の大火に
て遺書多く散逸して其書目さへ一部も残らぬ
らしは大祥の後嗣君信の碑銘を建立せし
として一文士に撰文を請んとして著述編纂
の詳なるを知ることを得ず常に余が信として二十
餘年の應接に落して校正の任を分ちしを
以て其信ししししを以て是を訪はしむ余

向に近世名家著述目録の編著ありて信の
在世の時信と商推して詳らかに書目を記さ
し收録しあらねどもしやその世にあらば幾
皆文運の盛なるにあらば益あらんかなし
今諸藩書目の收載せらるるにあたりて知遇のむ
かしを感じて其事記しぬ

○黒羽藩

日本書紀校本三十巻十五本

日本書紀神武巻假名附二巻二本

武門要鑑抄五巻

機織編五巻

感舊録三巻 大岡培業撰

○園部藩

子夏易傳十一巻六本

大義覺迷録三巻三本 清高宗時撰活字板二種小林穆閲校刊

○仁正寺藩

韓高詩稿四巻二本 木口簡撰

學庸増註二巻二本

韋註國語訂正二巻一本

唐詩選要解七巻五本

唐詩故事五巻三本 以上岡島順撰

古尺牘十二巻続十二巻合八本 明屠隆編岡島順校刊

○飫肥藩

如蘭集

以上廿六家

東京林縫之助藏書